

公民館だより なかがわ

第527号

令和8年10月1日
発行 中川地区公民館
TEL.Fax : 679-2501

参加者募集

【一般講座】

「フラワーアレンジメント教室」

日時：11月6日（金）10：00～11：30頃
場所：中川地区公民館 集会室
講師：つかさ花店さん
持ち物：花切はさみ、飲み物
材料費：2,000円（出展価格）
対象：中川地区民
定員：先着15名程度
締切：10月22日（木）といたしますが、
定員になり次第、受付終了となります。



昨年の作品です

※作品は、11/7（土）の福祉村文化産業まつりへの
出展をお願いいたします。展示する際の名前明記は、
希望者のみとなります。

昨年の展示作品



「中川福祉村 文化産業まつり」

日時：11月7日（土）10：30～16：00
農産物品評会&即売会、バザー
作品展示
大抽選会、豚汁の振る舞い（～15：45）
場所：中川農業者等トレーニングセンター

◎展示作品は、公民館一般講座の作品と、
地区民、学校、福祉施設より出展して
いただいております。

◎産業まつりは、7（土）のみの開催と
なりますので、ご注意ください。

※詳細は、各戸配布チラシをご覧ください！



お申し込み先：中川地区公民館（☎679-2501）

10月・11月 行事予定



10/1(木) 市報、館報
10/2(金) 三者会、会長会、公民館運営協議会
10/4(日) 中川福祉村大運動会
10/9(金) ウォーキング教室（職員不在時間あり）
【10(土)～16(金)防犯啓発期間】
10/16(金) 粋いき倶楽部（職員不在時間あり）
福祉村文化産業まつり実行委員会
10/19(月) グラウンド・ゴルフ愛好会大会
10/20(火) 一般講座「フェルトで作るオーナメント」
～クリスマスツリーを飾ろう～
10/23(金) パソコンクラブ
中川地区地域推進会議（職員不在時間あり）
10/30(金) そば打ち愛好会

11/2(月) 市報、館報
11/6(金) 一般講座「フラワーアレンジメント教室」
三者会、会長会
11/7(土) 福祉村文化産業まつり
11/9(月) 自衛消防訓練
11/10(火) パソコンクラブ
11/13(金) 粋いき倶楽部
11/14(土) 主事部・体育部反省会
11/20(金) そば打ち愛好会
ウォーキング教室反省会
11/25(水) グラウンド・ゴルフ愛好会反省会

グラウンド・ゴルフ愛好会（月曜日）
10/5、14（水）、19（大会）、26
詩吟教室（火曜日） 10/6、13、20

ラージピンポン愛好会（木曜日）10/1、8、15、22、29
スポーツ麻雀愛好会（木曜日）10/1、8、15、22、29



三陸・気仙沼探訪

8月27日(木)～28日(金)、中川シニア1泊研修会が行われ、総勢17名で宮城県気仙沼市へ行ってきました。朝早くからの集合となりましたが、皆さん元気に出発しました。バスの中でも楽しそうな話し声、笑い声が絶えまなく聞こえていました。初めに、多賀城市にある東北歴史博物館で、旧石器時代から近現代まで東北地方全体の歴史について学びました。その後、復興のシンボルとなっている龍の松や潮吹岩がある岩井崎に足を運んで自然の美しさを堪能し、気仙沼ちゃんの宿アインスくりこへと移動し、豪華な夕食を楽しんで1日目を終了しました。

2日目は、モノレールで美しいパノラマが広がる亀山展望台へ。その後、高田松原津波復興祈念公園で、奇跡の一本松や伝承館にて震災の記憶と復興の歩みを学ぶことができました。気仙沼市の市に移動して、シャークミュージアムでサメの街と言われている気仙沼の魅力を堪能し、たくさんお土産を購入して帰路へと着きました。天候にも恵まれ、充実した楽しい研修会となりました。ご参加いただきました皆様、ありがとうございました。来年も多くの方々の参加をお待ちしております！！



少年少女球技大会！！

9月12日(土)、中川地区子ども会育成会連絡協議会主催による「中川地区少年少女球技大会(グラウンド・ゴルフ大会)」が開催されました。ようやく暑さも落ち着き、秋空の下ゲームスタート！！緊張気味の子供達でしたがコツを掴めば、あっという間にナイスプレイ！！今年は保護者の皆さんや役員の方々に加していただき『行くぞ～』『惜しいね～』『結構難しいんだねえ』とお互いに声をかけながら、あちらこちらで歓声が上がり、楽しくプレーすることが出来ました。『楽しかった～』『賞がもらえて良かった～』とのお声もいただき楽しい時間となりました。お忙しい中お手伝いいただきました役員の皆様、子供たちに付き添っていただいた保護者の皆様、スポーツ推進員の齋藤さん、地域づくり推進員の武田さん、最後までありがとうございました。



男子		
1位	丸藤	渚さん
2位	鏡	愁護さん
3位	加藤	澪さん
女子		
1位	稲毛	心晴さん
2位	齋藤	風羽さん
3位	齋藤	彩夢さん





ウォーキング「熊野大社・琴平神社」

9月11日(金)、第5回ウォーキング教室は『熊野大社・琴平神社』に行ってきました。秋雨前線の影響で小雨が降っていましたが、テラポイトガイド高瀬泉さんの指導のもと、大鳥居から本殿までの道のりを歩いて来ました。ご神体の大銀杏や石畳の周辺に育つ杉は緑豊かで落ち着いた雰囲気があり、場内には風鈴が飾られスモークの演出もありとても綺麗でした。本殿や十二支の神社の参拝後、隠し彫りの三羽のウサギを拝観し願いが成就します様に... 🍀。次に双松バラ公園の色とりどりのバラを見ながら琴平神社へと向かいました。高台の広場の所で、久しぶりに『ヤッホ』と掛け声をかけ『いいね〜』と気持ち良く歩くことが出来ました。



【一般講座】「秋の寄せ植え教室」

9月18日(金)、蘭花園の佐藤 淳志さんを講師にお迎えし、毎年恒例となりました「秋の寄せ植え教室」を開催しました。ガーデンシクラメン、リンドウ、ヤブラン、エキナセア、アフリカン・サン、アスター、ナデシコ、カルーナ、トウガラシなど9種類のお花を準備していただきました。前日まで雨を心配していましたが、暑いぐらいに快晴となり、育て方なども詳しく教えてもらい、おしゃべりをしながら楽しい時間となりました♪



『上山市福祉大会』にぜひご参加を!

今年は「中川福祉村」がメインテーマとして取り上げられます

日 時：令和8年10月17日(土) 受付9:30~ 開会10:00 講演・発表10:45~

場 所：三友エンジニア体育文化センター「エコーホール」

内 容：福祉功労者表彰、講演・活動発表

◇「中川福祉村・50年の歩みを礎に新たな一歩」 中川福祉村 村長 木村 義博氏

◇「これからの地域福祉を中川福祉村から発信する」 元東北福祉大学教授 都築 光一氏

◇「上山市基幹相談支援センターゆるるか 活動報告」ゆるるか センター長 竹田 耕介氏



『民生児童委員』は 地域の身近な相談相手です!



地域の皆さんが安心して暮らせるよう、日頃から地域の見守りを行い、生活や福祉に関するさまざまな相談に応じています。「ちょっと気になることがあるけれど、どこに相談したらいいのだろう?」そんなときは、ぜひ声をかけてください。

民生児童委員自身がすべてを解決するのではなく、相談内容に応じて市役所や社会福祉協議会、福祉・医療などの関係機関による支援への「つなぎ役」になります。

気軽に地区の民生児童委員にご相談下さい!

民生児童委員は、厚生労働大臣から民生委員法に基づいて仕事を任せられている非常勤の地方公務員です。相談内容の秘密を守ることが法律上義務付けられています。

おらほの中川〈地域の話題シリーズ 第二百十六弾〉

「昭和考、問わず語り（その68）」

甲石地区 高橋 正之

日本は、昭和十六年十一月一日の大本営政府連絡会議で「開戦は十二月初頭とするが、外交交渉は、十二月一日零時まで継続する」という方針を決定します。

本稿では、日米交渉の状況と開戦決定に至る経過について記述します。

〈焦点は、中国からの撤兵と三国同盟〉

日中戦争が始まって以来、米国は日本に対して門戸開放、機会均等などをうたったワシントン・九カ国条約（大正十一年・一九二二年二月締結）体制の維持を主張続けていた。

九月以降の日米交渉は、米国の欧州参戦における三国同盟発動問題と日本の中国撤兵問題の二つを焦点としていた。

十一月には、日中和平成立後の日本軍の駐兵は約二十五年間を目途とするなどの甲案と、南部仏印からの北部仏印に後退して、代わりに対日石油輸出の再開を要求する乙案を提示した。

日本は、和戦両様のかまえをとったが、交渉期限を十一月二十五日（のちに十一月三十日）までと決定して開戦準備を整えていた。一方米国は、暗号解読により、日本の手の内を完全に読んでいた。

〈日本の開戦準備を見て暫定協定案を放棄〉

乙案が提示された十一月二十日には、米国では、全面協定案と暫定協定案、あるいはルーズベルト大統領の「六ヶ月案」（対日戦が六ヶ月延ばされればよいという）などいくつかの案があった。

そのうち国務省極東部作成の暫定案は、二案と似通ってさえた。「ハル・ノート」が手交された前日の二十五日には、暫定案を日本側に提示すること、米国側の方針が固まっていた。

しかし、二十六日午前九時半、スチムソン陸軍長官は、ハル長官との電話をしたあとルーズベルト大統領に電話して「一万トン級の十から十三隻の船団が台湾南方で認められた」との陸軍情報を受け取ったか、と質した。

ルーズベルト大統領は、カンカンと怒り「それはまだ見ていないが、（中略）日本側の背信の証拠なの

だから、それは全事態を変えるものだ」と述べた。（以下ロエと略、防衛庁戦史室資料「太平洋戦争への道」七）

台湾南方の船団は、十一月五日の御前会議決定、「帝国国策遂行要領」に基づいて準備拠点に集結中の日本軍船団と推測できる。マレー半島上陸作戦にあてられた第五師団の集合地は、中国海南島の三亚で「X-15日（二十日）（十一月二十三日（二十八日）の間に到着するよう計画されていた。三亚への入港のピークは二十八日、この日八隻が入港した（戦史叢書「マレー進攻作戦」）。

野村大使の日本政府あて電報を解読して「ハル・ノート」を初めて知ったスチムソンの問い合わせに対して、ハルは「事柄全体を打ち切ってしまった。日本との渡り合いは、今や貴下たち陸海軍の手中にある」と返答した（ロエ）。

〈米国が「ハル・ノート」を提示、交渉打ち切り〉

昭和十六年十一月二十六日午後五時（ワシントン時間）、ハル米国務長官は野村吉三郎駐米大使と来栖三郎特派大使に対し、「包括的基盤協定案」いわゆる「ハル・ノート」を手渡した。

「ハル・ノート」は、四月に提示されていた四原則（①あらゆる国家の領土保全と主権の尊重②内政不干渉③機会均等④平和手段によらない限り太平洋の現状を変更しない）のほかに、①日、米、蘭、中、ソ、タイ間の多面的不可侵条約の締結②中国、仏印からの一切の兵力及び警察力の撤収③重慶の国民政府以外の政府あるいは政権の否認④中国における一切の特権の放棄⑤日独伊三国同盟の廃棄などを骨子としていた。

八ヶ月におよぶ日米交渉の末に、米国の国際政策の原則が最大限に表現された「ハル・ノート」が提示されたことは、交渉を打ち切るという実質上の最後通告であった。

〈日本が開戦を決定〉

日本は、十一月二十七日、大本営政府連絡会議を開いて、「ハル・ノート」は日本に対する最後通牒であるとし、次いで十二月一日の御前会議で開戦を決定した。

交渉成立を恐れる参謀本部は、「ハル・ノート」の到着に「之レ天佑トモ云ウベシ、之ニテ帝国ノ開戦決意ハ踏切容易ニナレリ、芽出度々々々」と安堵したという（防衛庁戦史室資料「前掲書」）。（十一月二十六日、ハワイ作戦の機動部隊が択捉島の単冠湾を出港した。）（以上「昭和二十万日の全記録」講談社刊より。写真も同じ。写真左・ルーズベルト米大統領、右・ハル米国務長官。）

〈同時期の上山の出来事（上山市史年表より）〉

昭和十六年十一月 三浦銀行が両羽銀行に営業譲渡する。

山形県が米の配給制を実施する。

酒類は、隣組を通して配給を実施することになる。

（次回は、開戦を決定した御前会議の詳細について記述する予定です。）

